

平成31年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
若年性認知症支援者研修会 中部地区開催(最終) 報告書

1. 研修会名：「平成31年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 目的：若年性認知症の一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援が受けられることを目的とする。
3. 主催：沖縄県（受託 特定医療法人アガペ会）、共催：認知症疾患医療センター
4. 対象：若年性認知症の初期対応相談窓口職員（市町村役場担当窓口職員・地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員・介護支援専門員・医療機関相談員・介護保険事業所の相談員など）を対象とする。
5. 方法：平成30年度作成 本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック第二版（沖縄県）並びに支援者のための若年性認知症支援ガイドブック（沖縄県）をテキストとして配布し、支援内容について沖縄県若年性認知症支援コーディネーターが説明を行う。
6. 開催地区並びに開催日、会場について

開催地区	開催日及び時間	会場と定員
本島中部地区	2019年6月24日（月） 10時～12時（受付9:50から）	ピーズスクエア 定員25名（浦添市西原2-4-1）

※会場について：当初予定した宜野湾市伊佐4-3-17伊利原老人福祉センターでの駐車場確保が難航し、浦添市西原2-4-1ピーズスクエアへ会場を変更した。申込者へ直接電話連絡し、了承を得て実施した。

7. 参加費：無料
8. 申し込み方法：専用申し込み用紙あり。用紙のない方は、開催地区を明記したうえで、氏名、所属先、連絡先を記入しFAX（098-943-4702）まで。
申し込み期間：平成31年4/1～各地開催日の前日まで。先着順とした。
9. テキスト：当日配布。
10. プログラム

司会進行・講師：若年性認知症支援コーディネーター

内容：ハンドブック、ガイドブックに沿って説明し、注意事項を伝達する。

1	県の現状 10分	はじめに、貢説明
2	医療 20分	気付き、診断されたら、医療との連携、病態について
3	制度 40分	利用できる制度について、障害者福祉制度、介護保険
4	仕事 15分	仕事について
5	子ども・車・生活 15分	子どもの支援、車の運転について、生活について、これからのこと
6	相談窓口 10分	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について

11. 広報

2019年4月1日 北部圏域へ認知症疾患医療センター宮里病院より発信
2019年4月23日沖縄県若年性認知症支援推進事業より

広報チラシの発送県内477件

県高齢福祉課発信：FAXにて県内医療福祉関係機関へ発信

1 2. 事前申し込み状況 申し込み者 26名

1 3. 当日の様子 当日参加者数 26名

内訳：医療 3名、介護保険事業所 13名、行政 1名、包括 9名

運営：認知症疾患医療センター1名（北中城若松病院）

1 4. 内容（特にお伝えしたこと）

相談対応の現状に対応した項目となっており、各内容については、ワーキングチームによる見解並びに確認作業によって完成されたことをお伝えした。

1	県の現状	ガイドブック P1 を読み上げる。若年性認知症支援コーディネーターの支援始まり、単身者が多い現状と、それに伴い介護者も高齢で支援が必要な状況であったことなどを説明。手続きの詳細など情報も必要となり、今回の支援者向けガイドブック作成に至ったことを説明。
2	医療	物忘れ＝認知症ではない。内科疾患も多い。気付き方は様々であるが、MCI も診断される。支援者の自己判断ではなく、エピソードをしつかりまとめ、医療へ繋ぐことが望ましい。医療との連携で、かかりつけ医への相談後、鑑別診断が必要な場合には、認知症疾患医療センターへ相談という手続きを説明。認知症疾患医療センターへの繋ぎ方や鑑別診断に伴う費用についても事前に尋ねることも助言が必要。経済的課題による医療離れがあることを支援者は認識してほしい。ガイドブック P5 の疑いチェックリストの紹介。ワンストップとして設置された若年性認知症相談窓口の紹介。若年性認知症支援コーディネーター役割の説明。
3	制度	働き方の見直しに伴い減収するため、制度を駆使することは必須。まず自立支援を活用し、できれば同時に精神障害者保健福祉手帳の活用が初期対応として理想。手帳の優遇措置とその活用を説明。ガイドブック P18 その他の制度について説明。傷病手当金、障害年金について仕組みを説明。併給調整のリスクを把握し説明することが求められる。いきなり介護保険でない。障害者総合支援法を活用し、働く意識を継続することも重要。特に平成 30 年度新設の自立生活支援の展望について紹介。介護保険については最近の傾向である暫定のリスク、ガイドブック P32 の有償ボランティアについて、社会参加活動であることの説明。障害者総合支援法と介護保険の併用と、移行時期の見極めについて今後の課題を伝える。
4	仕事	ガイドブック P25 表を説明し、若年性認知症の人の働き方について説明。職場との調整方法並びに話し合う内容について、P26 チェックリストの活用を紹介。治療と仕事の両立支援について説明。
5	子ども・車 ・生活・財 産	子どもの支援について、親の手帳で奨学金申請へ影響ある。奨学金については常に創設の動きあり、状勢をチェックしてほしい。車の運転：認知症診断、認知症薬開始と法制度の説明。認知症者の運転技術、車輌保険加入確認の必要性を説明。生活について、これから

		のことについて本人への指導として、ハンドブック P25～P28 活用を紹介。財産管理についてガイドブック P39 を読み合わせ。 ハンドブック P28 訂正依頼 ×当時者→○当事者
6	相談窓口	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について説明

(質疑応答) 質疑応答時間が本日設定できなかった。疑問や不明な点があれば、後日、電話で対応しますとお伝えした。

15. アンケート結果：回答 24名 回収率 92.3%

問：ハンドブック・ガイドブックの内容（仕上がり具合）について教えて下さい

	大変良い	良い	ふつう	悪い	大変悪い	無記名
ハンドブック	66.7%	20.8%	4.2%	0%	0%	8.3%
ガイドブック	70.8%	25.0%	0%	0%	0%	4.2%

問 ハンドブック・ガイドブックの次回の改定時に掲載が必要と思われることについて教えてください。

ハンドブックについて：

- ・生活保護、住宅手当制度を載せて下さい。
- ・細かく情報はのっているが、「本人・家族用」としては内容が入りにくいため、わかりやすい、どこに相談に行けばいいかや、チェックリストをメインにしてほしい。
- ・役割、生きがいについて
- ・本人への告知について。告知することのメリット。
- ・ハンドブックがあることで、視覚的にもわかりやすく、また不安になった時に、再確認出来る点がとても良いと思います。

ガイドブックについて：

- ・生活保護、住宅手当制度を載せて下さい。第三者後見の職種を記入お願いします。
- ・重要な部分に下線を引くなど、目立つようにしてほしい。
- ・連携シートについて、抜けのある項目（税金・自動車税）を網羅したものが載せていただけるといいなと思いました。
- ・役割、生きがいについて
- ・医療との連携→セカンドオピニオンを勧めるタイミング。認知症疾患医療センターに繋ぐ時（タイミング、状態像・・・）
- ・障害者手帳など、申請に必要な書類の見本などがあるとわかりやすいかも。特別障害者手当の支給額 26940 円→H31.4月より 27300 円だったはず（※ガイドブック作成

時点の年月日が抜けてている)

- ・同じ様な事例はないと思うのですが、診断されてから様々な手続きや支援の内容、段取りをする流れ、フローチャートなどどうか。
- ・関わり方の注意点など

感想 :

- ・(ハンドブックについて) 内容は良いと思いますが、書かれ方が難しいと思う。どんなしたら良いとは言えませんが、高齢の方でもわかるように出来ればもっと良いと思う。
- ・ハンドブックがあることで、視覚的にもわかりやすく、また不安になった時に、再確認出来る点がとても良いと思います。本人・家族が不安を抱えているなかで、係わる支援者として、知っておく大切さを改めて感じました。情報が多くある中で、今伝えるべきことや、今後予測されること等、対象者の今後の生活に係わるので、知る、伝える重さを感じました。
- ・現在、支援している方がいないので、詳しくは言えませんが良いと思います。利用したときに良さがわかると思います。
- ・支援者が把握していないこと、把握すべきであるが把握していない場合、見落とさず、お互いで確認しながら支援していきたい。行政の担当によっても異なる場合があるため、必ず、確認して支援をすすめていきたい。
- ・相談が来たときに、ガイドブックを活用しながら支援していきたいが、わからない場合は、認知症疾患医療センターや、コーディネーターに確認しながら、助言支援していきたい。
- ・ケースが増えてきているため、取組み体制整えていきたい。
- ・連携シートは聞き取りの時にも役立つので、是非活用したいと思います。
- ・今回参加して、やっぱり制度の難しさ、手続きに関しては、家族も難しく、私達支援者も一緒に理解し、説明していくなければならない責任があり、本日、より痛感しています。とても見やすく、帰って読んで、理解勉強したいと思います。本日の研修で、再確認、発見、知識を重ねること、若年性の特徴も理解したいと思います。
- ・今後も研修あるといいなと思いました。
- ・経済的な面が記載されていてよかったです。
- ・考えに伴って頁が配置されているのは良いなと思います。
- ・支援者ガイドブック、読んで実践にて使わせてもらいます。
- ・沖縄に特化したわかりやすい内容で、読みやすいと思います。経済的な情報、財産管理について大変参考になりました。居場所が増えて、ガイドブックに載せられるようになるといいと思います。

16. 主催者の所感

最終の開催にて、各地域より地域包括支援センターの方が多く、申し込まれていた。連携シートを活用しながら、ケースを通して支援を深めていけるのではないかと感じた。

2019年支援者研修会6回開催の参加者合計382名であった。

以上